（別　紙）

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況（太枠囲み部分）」に記入をお願いします。（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は法人の理念をホームとしての理念に置きかえ、玄関にも掲げている。	玄関入口の壁には「施設の理念」「施設の心がけ」を掲示しており地域生活の継続支援と地域の関係性を重視した理念を大切にしてる。	理念を掘り下げ具体的なケアに繋げるため全体で話し合い、見直すことも含め更に理念の共有を意識づけていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村の行事参加や近隣の店での買い物等、交流できるよう心がけている。	地域とは松川村の映画鑑賞、芝居見学などには有志が参加している。自己評価にあるように日常の頻繁に地域の人が訪れることは少ない。	周囲の自治体、町会との密度の濃い交流に事業所側からも積極的働きかけていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向けたものは活かせていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、活動報告や利用者との交流を図っている。必要と思われることは全て報告し、意見等をもらっている。	昨年までは「運営推進会議」での報告が中心であったが今年からは利用者との料理つくりなどの協同作業を通じて本音意見を収集して有効活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは懸案事項を常に相談し、市町村も必要に応じて訪問してくれている。	定期的な連絡打ち合わせはないが市町村からの各種要望、依頼には前向きに対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。所在確認を常に行い、夜間以外は玄関の施錠も行わないようにしているが、入所時、ご家族には危険防止のための玄関等の施錠の同意をもらっている。	身体拘束に関する「行動指針」「関係マニュアル」を文書化されております。併せてH20年10月実施の「社員研修記録」を確認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内や地域で行われる研修に参加したり、機会があれば、会議等で虐待について話しをしたりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内や地域で行われる研修に参加したり、機会があれば、会議等で話しをしたりしている。また、個々の利用者に関しては、必要性があるときは関係者と相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの利用にあたっては、入所時（契約時）に説明を行い、不安が少なく、納得して頂いた上で利用して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や各行事、面会時等、その都度、意見や要望を聞くようにしている。	サービス提供を表記した「利用者請求書」、利用者毎の「小口現金出納帳」、利用者家族との連絡を記録した「業務日誌」、事業所からは「暮らし新聞の報告」を利用者家族に年4回送付、苦情対応マニュアルを文書化していることを確認した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員体制など、リーダーを中心に現場の意見を聞いてくれている。また、人事考課制度により年に2回、管理者と職員個々が直接話せる機会がある。	職員意見の収集は「毎日のミーティング」「毎月のグループ会議」で行なっており、管理者及び経営者に伝達するようにしている。利用者の意向、満足度調査結果をどの様に反映したか会議の記録に明確されていないケースがあった。	職員の意見や提案を大切にしている。このような意見や提案に具体的にどの様に反映させたのかその経過が見えるようにステップアップすることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生や親睦委員会により、職員旅行、職員歓迎会、新年会など職員間の親睦を深める機会を設けている。 年に2回、管理者が人事考課による職員面談を行ない、本人の意向や意見を聞く機会を設けている。 併設の老健ライフ2と共同での勉強会及び職員への教育（担当　施設長）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に研修に参加している。また、法人内でも、経験年数や力量に合わせた研修の企画・実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡協議会に加入し、情報収集や意見交換を行ったり、職員個々がそれぞれの職種での交流の中で交流している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人とお会いし、ご本人の状況把握に努めている。また、サービス開始の検討の際には、必ず体験利用をしてもらい、GHの事を知ってもらうようにし、職員にも本人の事を知ってもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族とお会いし、ご本人やご家族の状況把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、必要な支援の把握に努め、入所待機期間中の対応策を提起している。また、他の同様の施設紹介や、場合によっては申込援助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動を通じて、地域や本人の習慣を引き出したり、ご利用者やご家族の状況、精神状態、思いを出来るだけ把握し、職員間で共有出来るよう努めている。また、職員が一方的にサービスを提供するのではなく、日常の中で必要なことを利用者と行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時には連絡を取り、ご本人の意志や行動について話し合いを持つようにしている。また、受診や行事参加など、出来ることをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設からの入所や、地域性の薄い入所者が多く馴染みの場所や人の把握が難しい。把握出来た場合には、出来る限り支援に努めているが、ご家族以外とはほとんど出来ていないのが現状。	知り合い、旧友が関連事業所に入所した場合は優先的に面会して頂くための支援している。また女性の場合は馴染みの美容院などの訪問を提案している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動や季節の行事等を通し、ご利用者の性格やご利用者間の関係を把握し、不安を避け、利用者同士が孤立しないよう職員が間に入っている。変化があったときは、職員が調整役になっている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に移動された方に関しては、時折様子を見に伺わせてもらったり、ご家族に様子を伺ったりしている。サービス終了後は施設入所の方がほとんどのため、継続的な関係性が必要と思われる方はほとんどいない。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、ご本人から直接話希望や意向を聞き、ご本人の立場に立ってケアを提供できるよう努めている。また、サービス計画を立てる時には、ご本人の意向や日々の訴えを組み込んでいる。	アセスメント記録は「ケアチェック調査表」を作成して各人の希望、意向を把握している。事例として具体的には各人の要望に応じて書道、和裁、洋裁などに取り組んでいることを確認した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報として、生活歴や地域での暮らし方など、関係者から情報提供して頂いている。 また、入所後、新たに情報があった場合には、職員間の情報共有に努めている。利用者との関わりの中で大事なことと認識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の状態を観察・把握し日々のケアをその時その時の利用者の状態に会わせ行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時には、ご本人・ご家族や職員の意見を聞き、計画作成に努め、実施・モニタリングを全職員で行っている。ご利用者に変化が見られたときには、現状にあったプランに変更している。	利用者個別に「ケアプラン評価表」を作成しており、課題を明確にしており介護計画に反映している。アセスメントを含め全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成からモニタリングまで、それぞれの職員が考え、実行・モニタリングしている。計画更新時にはご本人・ご家族はもちろん、各職員からも意見をとり、会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況を素早く把握出来るように努め、ニーズに対応出来るように心がけ、受診等、家族やご利用者の要望が合ったときは、その要望に応えられるよう努めているが、数多くはない。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望があれば出来る限り対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として受診はご家族にお願いしている。受診時には、日頃の状況をご家族から伝えてもらったり、状況書を作成するなどして、主治医と連携できるようにしている。	隣接の関連組織に医師等が常駐しており症状に応じた適切な判断、医療サービスが受けられる仕組みができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化時や緊急時等は、常勤の看護師や管理者の医師や併設老健の看護師と相談しており、主治医につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、担当ケースワーカーと連絡を取り合い、退院後の受け入れ態勢やリハビリの進展具合等、連携をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症が今後どのように進行するかと言った予測の話し合いはご家族と契約時･面会時にするようにしているが、終末期のケアに関しては、今の所行う予定はなく、ご家族にも了承して頂いている。重度化･急変への意識が低く、職員間の共有に関しては弱い。	事業所方針として終末期のケアを予定していない。この点は利用者にも契約においても明らかに理解してもらっている。重度化や急変時の場合、家族の意向や医療との連携について更には話し合いの積み重ねを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の訓練や講習会の参加を心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は行っている。	「災害時避難逃避マニュアル」を文書化している。隣接の施設（ライフII）が緊急対応連絡網など整備している。災害訓練は平成21年6月25日に隣接施設と協同で行なっている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや個人情報保護に関しては、職員室に掲示し、いつでも職員が対応出来るようにしている。また、尊厳保持について、職員間で統一した意識を持てるよう、気づいた時にはその場で話している。利用者の尊厳を守れるよう意識している	認知症ケアマニュアルを文書化しております。職員研修は年5回実施している。利用者プライバシーの保護のための取り組みとして「行動指針」及び「介護研修参加記録」を確認した。更に関連ビデオを視聴して職員教育として活用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のレベルに合わせ、できるだけわかりやすく説明したり、納得して頂けるように、また、ご 本人に決定権があることを意識して、自己決定出来るよう話すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、1人1人のペースにできるだけ合わせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは心がけている。外出時等、ご本人の希望に添って服選びをしている。理・美容は併設施設に来てもらっている、ボランティアを利用.		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容は一定の利用者と決めることが多くなっているが、毎日一緒に献立を考え、準備、食事、片付け、買い物を一緒に行っている。おやつ作りを行っている。ひとりひとりの嗜好の把握を行い、代替品の準備をしている。	買い物、料理つくりは職員、利用者が一緒に行なっております、良好なコミュニケーションを形成している。	非常に優れた支援をしてるので引き続きう現状を維持して頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量に配慮し、摂取量の少ない方には、好みの物で補う等の対応を行っている。また、食種の検討も行っている。糖尿病の方には摂取量を控えてもらったりしながら、バランス良く摂取してもらえるように心がけ、気になる方は、摂取表を利用し職員間で把握する等行っている。併設施設の栄養士にも相談にのってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に合わせ、毎食後口腔衛生を行っている。併設老健の歯科衛生士にも相談している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声がけをしたり、個々の状況によって声がけや誘導を行うことで、トイレでの排泄が出来るよう心がけている。出来る限り、おむつ類の使用がないように心かげている。	あくまでも排泄の自立支援を基本としている。入所者の自立レベルから特に問題はありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を中心に、毎日の体操などの運動や、水分･調理法などで排便を促すように努めているが、無理な場合は主治医と相談し、下剤の服用をしてもらっている。下剤は看護師と話し合い、常に最小限ですむようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望にあわせて入浴してもらえるように心がけている。	現場確認においても個人の要望、希望に合わせて入浴を支援しており利用者本位にたって対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望を大切にし、安心して休息したり、眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容を確認しながら、バイタルチェックや毎日の様子で身体の変化に注意し、変化時は主治医や管理者の医師、看護師等に相談している。 受診日には薬内容等を記録。服薬に関しては、禁忌事項の把握、用法、重要な薬の把握は最低限行うように努めている。また、処方内容が変わった時には、変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や趣味にしていたり好きなことを引き出せるよう話したり観察を行い、職員間で情報を共有出来るよう心がけ、興味が持てることを行えるようにしている。また、外出等で気晴らしをしてもらえるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら散歩、ドライブ、外気浴、外食、買い物に行くなど、できる限り外に行けるよう支援している。 個々の希望に対しては、突発的な希望は困難なときが多いが、職員体制を事前に整えられる時は整え、出きる限り支援してる。	日常的な外出支援として「1日おきの買い物による外出」「施設隣の家庭菜園での野菜つくり」「季節毎に近隣の果樹園、近隣の観光名所での散策」「年1回の一泊旅行」などを行い前向きな対応支援をされている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物は一緒に行っていただくよう心がけており、行える方には、ご自分で支払いが出来るよう見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の状況を考慮しながら、電話をかけている。手紙はほとんど書く方はいないが、書くことが好きな方がいる時には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の採光は天窓が設置されており、自然光が入るようになっている。また、トイレも窓が付いており、常に換気出来るようになっている。居間は食堂と共用になっており、和室も使えるようになっている。なるべく花を飾る等行い、季節感を感じてもらえるようにしている。	共用空間（廊下、居間）は開放感があり、トイレなども広くて清潔感があり快適です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関外にベンチを置いたり、和室にソファをおいたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込んでいただく物に特に制限はしておらず、使い慣れた物や馴染みの物を持ってきていただけるようご家族にお願いしている。	事業所からは居室に持ち込むものの制限はしていません。どちらかと言うと共用の居間、台所、食堂での生活を好んでおり居心地良く過ごしていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の「出来る活動」と「している活動」の把握を行い、職員間で情報の共有とケアの統一を図っている。施設内はバリアフリーになっており、廊下・浴室・トイレ・各出入り口等に手すりが設置されている。また、居室内は、本人の身体状況に配慮した家具位置を心がけ、状況に合わせて手すりを増設している。		